

神戸市感染症発生動向調査週報

平成28年12月21日 作成

神戸市感染症情報センター

報告定点数 48 ケ所

設置定点数 48 ケ所

第50週 2016年 12月 12日 ～

2016年 12月 18日

インフルエンザ

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～
インフルエンザ	15	10	5	1	73	9	13	78	68	272		1	6	6	10	7	12	10	16	12	21	75	24	10	18	22	6	9	4	3

小児科

報告定点数 31 ケ所

設置定点数 31 ケ所

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～
R Sウイルス感染症	4		2		4				8	18	3		8	4	2	1								
咽頭結膜熱	2	4			1	1	5	1		14			3	5	1		3			1	1			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	5	1		23	2	5	3	17	59					4	5	2	10	3	4	6	19		6
感染性胃腸炎	83	56	26	13	106	24	105	160	109	682	5	13	55	42	53	72	102	49	50	33	31	70	16	91
水痘		2	1	1	13	3	6	11	1	38	1	3	2	2	3	9	2	4	2	5	3	2		
手足口病			1	1		1	1	3	1	8			1	1	1	2	1			1				1
伝染性紅斑						1				1										1				
突発性発疹	3		3			1	4	2	3	16		8	7	1										
百日咳				1				1		2									1			1		
ヘルパンギーナ		1	1		1			1	1	5			1	1			1	1		1				
流行性耳下腺炎	13	3	1	1	11	2	7	5	9	52				2	1	8	7	12	8	5	2	7		

今週、後天性免疫不全症候群（HIV・AIDS）の報告が2例あり、平成28年の本市での報告はHIV 8例、AIDS8例となりました。平成28年国内の年報告数は1,434例（男性1,357例・女性77例）、うち感染経路として同性間の性的接触が941例を占めており、男性同士の性行為がHIVの最大の感染経路になっています。HIVの主な感染経路は性行為であるため、感染予防として、コンドームを正しく使用することが重要です。自分がHIVに感染しているかどうかは血液検査を受けることでしか分かりません。神戸市では、各区役所及び三宮センタープラザにてHIVの無料・匿名検査を実施しています。日程等詳細は神戸市ホームページでご確認ください。

[神戸市「エイズ・性感染症 無料・匿名検査」※クリックで該当ページに飛びます](#)

報告定点数 10 ケ所

眼科

設置定点数 10 ケ所

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～
急性出血性結膜炎																													
流行性角結膜炎				1				1	1	3												1			2				

（定点機関から報告されたその他の感染症情報）

東灘区○マイコプラズマ感染症1例:5～9歳女(6102)
灘 区○マイコプラズマ感染症1例:5～9歳男(6202)
中央区○ノロウイルス感染症1例:0～4歳男(6301)
垂水区○アデノウイルス感染症1例:0～4歳女(6802)
西 区○ムンプスウイルス感染症1例:5～9歳女(6905)

（インフルエンザ定点機関から報告された迅速キット陽性情報）

A 型	B 型
255	2

【お知らせ】 バックナンバーは神戸市のホームページからご覧いただけます。

[神戸市 発生動向 【検索】](#)

[「ILI情報センター」ホームページを開設しました！詳細はこちらをクリック](#)

【結核に関する情報】 今週の結核届出患者数は12人(うち潜在性結核感染症6人)です。

【市内の感染症の状況】

●インフルエンザ: 定点あたり報告数は5.7人で、例年より約1か月はやい患者数の増加がみられます(先週:2.7人)。12月末に警報レベル(30人)を超えた2014年と同じような動向を示しています(グラフ参照)。

●感染性胃腸炎: 定点あたり報告数は22.0人で、2週連続で警報レベルを超えました。

【感染症発生動向調査事業実施要綱】

<http://www.city.kobe.lg.jp/life/health/infection/trend/img/youkou110729.pdf>

※病原体サーベイランスとは、流行する感染症の病原体を詳しく調べて、その特徴や流行状況を監視するシステムです。解析結果は、「神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況」をご覧ください。

神戸市感染症発生動向調査週報

神戸市感染症情報センター 2016年12月21日 作成

全数把握対象感染症発生状況（五類感染症 後天性免疫不全症候群）

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法（検査法）	症状	推定感染原因	備考
男	50代	2016年11月30日	2016年11月30日	2016年12月12日	AIDS	その他（ECLEAR法） Western Blot法	サイトメガロウイルス感染症	不明	
男	50代	/	2016年12月10日	2016年12月17日	無症候性キャリア	PA法 Western Blot法	/	同性間性的接触	

全数把握対象感染症発生状況（五類感染症 急性脳炎）

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法（検査法）	症状	推定感染原因	備考
女	0～4歳	2016年12月13日	2016年12月15日	2016年12月16日	/	臨床診断	発熱・痙攣 意識障害	不明	病原体不明

全数把握対象感染症発生状況（五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症）

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法（検査法）	症状	推定感染原因	備考
男	80代	2016年12月8日	2016年12月8日	2016年12月13日	/	腹水培養 薬剤耐性の確認	肺炎・腹膜炎	不明	以前からの保菌
男	10代	2016年12月3日	2016年12月3日	2016年12月7日	/	尿培養 薬剤耐性の確認	尿路感染症	不明	以前からの保菌

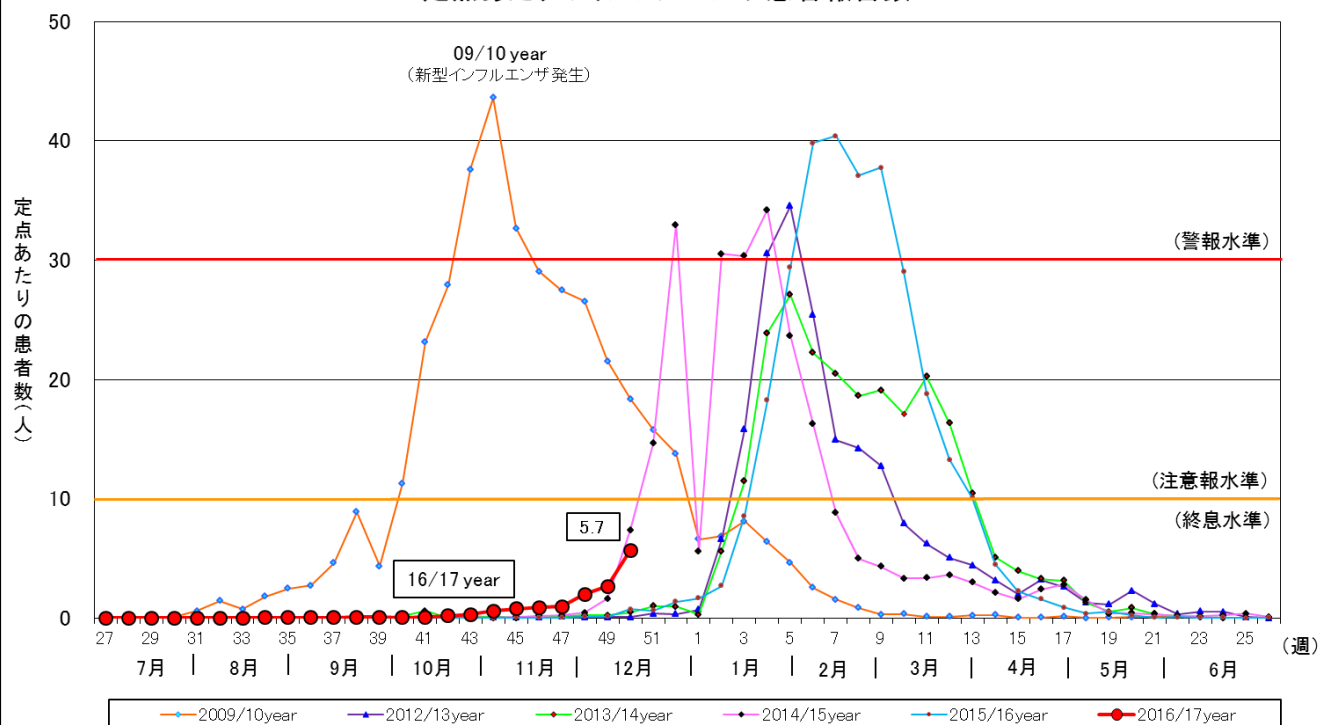
全数把握対象感染症発生状況（五類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症）

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法（検査法）	症状	推定感染原因	備考
男	0～4歳	2016年12月7日	2016年12月9日	2016年12月12日	/	血液培養法	発熱・痙攣 菌血症	不明	ワクチン接種歴あり （4回）
女	80代	不明	2016年12月14日	2016年12月16日	/	血液培養法	発熱・咳 意識障害 菌血症	飛沫感染	ワクチン接種歴なし

神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況

病原体	検体	区	状況
A型インフルエンザウイルス （H1pdm09亜型）	鼻汁	灘	6歳1ヶ月男児（12/8採取、38.5℃、インフルエンザ、ワクチン接種済み）
A型インフルエンザウイルス （H3亜型）	鼻腔ぬぐい液	中央	36歳男性（11/29採取、40℃、インフルエンザ、ワクチン未接種）
	咽頭ぬぐい液	中央	39歳4ヶ月女性（11/28採取、39℃、インフルエンザ、ワクチン未接種）
	鼻腔ぬぐい液	須磨	29歳2ヶ月男性（12/6採取、38.7℃、インフルエンザ、ワクチン接種済み）
	鼻腔ぬぐい液	西	3歳7ヶ月男児（12/14採取、39.3℃、インフルエンザ、ワクチン未接種）
ノロウイルスGII	便	中央	1歳11ヶ月男児（12/16採取、発熱なし、感染性胃腸炎）、通っている保育園で複数の患者発生
	便	東灘	1歳女児（12/14採取、発熱なし、感染性胃腸炎）
	便	中央	41歳女性（12/12採取、37℃、感染性胃腸炎）、家族内感染

定点あたりのインフルエンザ患者報告数

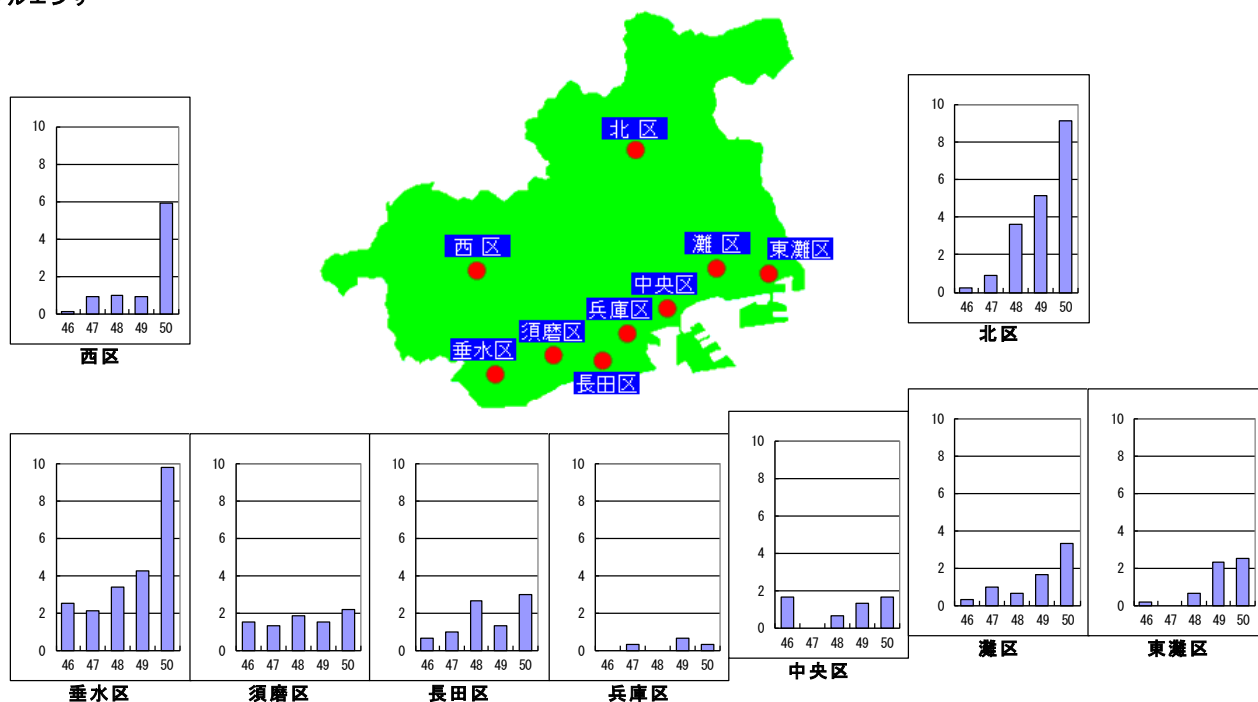


疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 46 週 平成28年11月14日

～ 第 50 週 平成28年12月18日

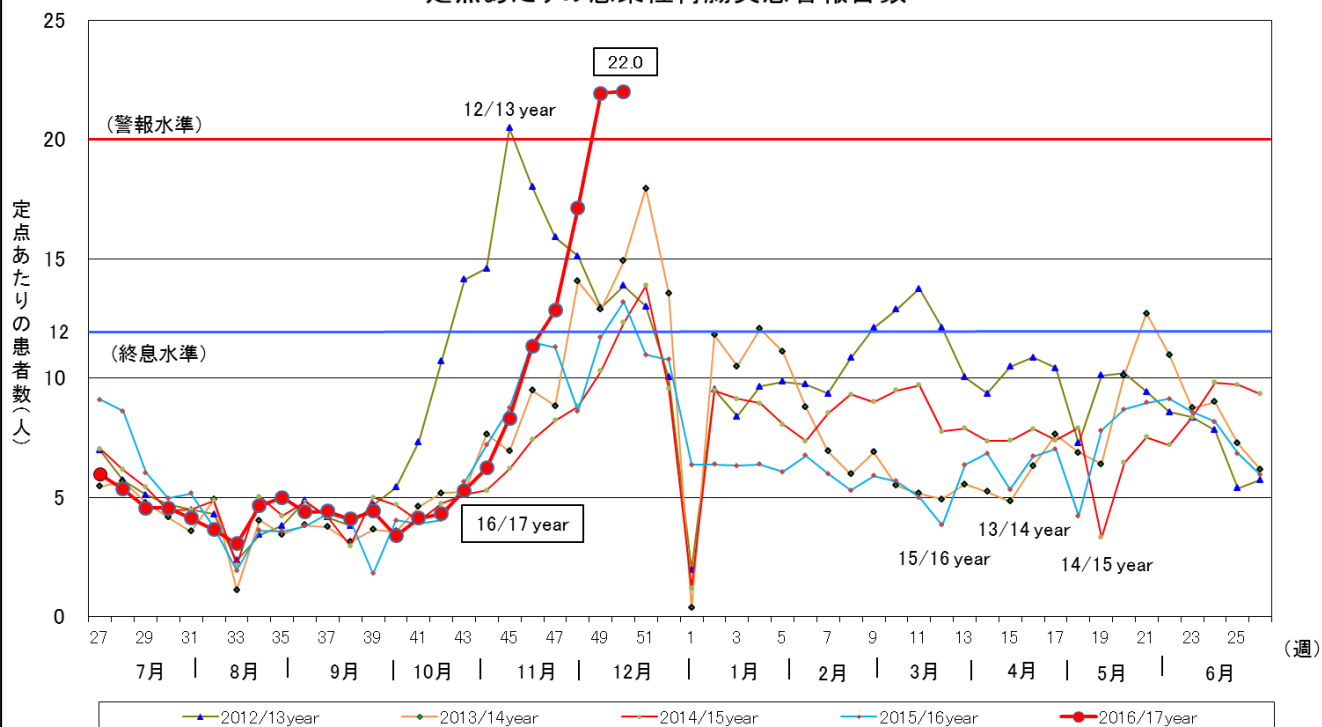
インフルエンザ



※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により報告医療機関数は異なるので区内の継時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。

市内インフルエンザ定点 (48カ所)	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西
	6	3	3	3	8	3	6	8	8

定点あたりの感染性胃腸炎患者報告数



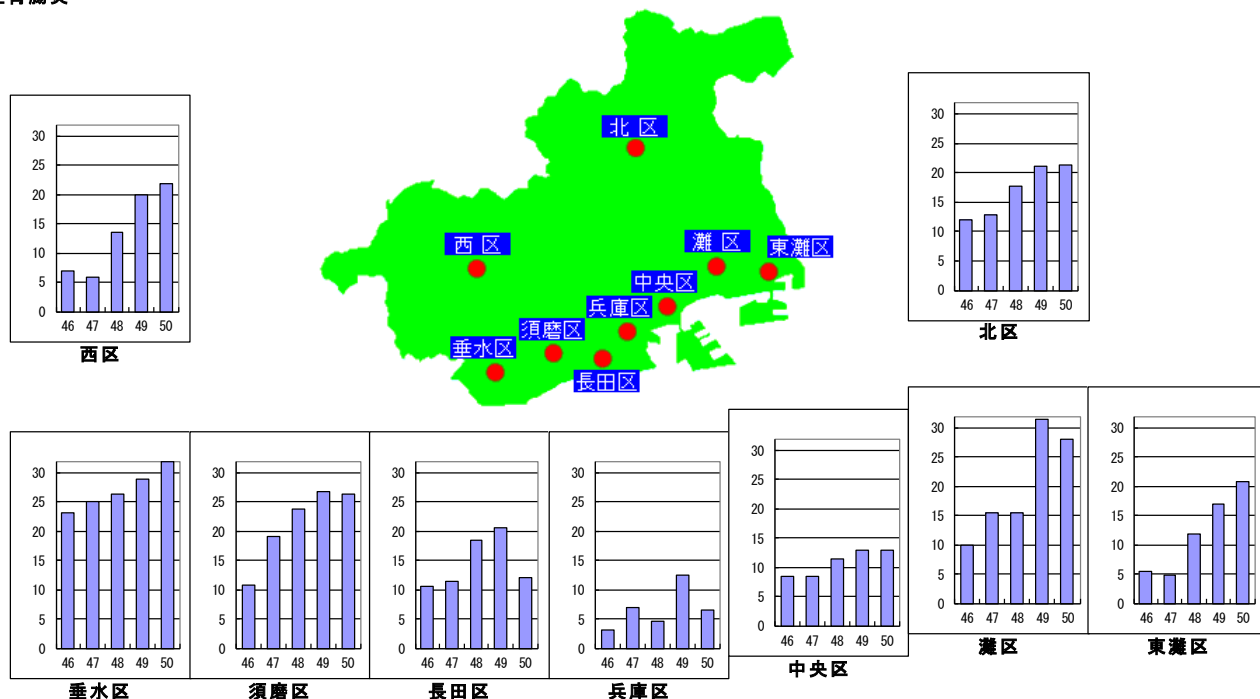
疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 46 週 平成28年11月14日

～

第 50 週 平成28年12月18日

感染性胃腸炎



※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により報告医療機関数は異なるので区内の継続的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。

市内小児科定点 (31カ所)	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西
	4	2	2	2	5	2	4	5	5